



# よみがえる文化財

—文化財整理・保存科学見学回廊—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

九州歴史資料館の中庭では、文化財の科学的調査や、整理・修復作業の様子を見学することができます。それぞれの室ではどのようなことが行われているのでしょうか。

## 1 光学調査室

文化財のつくられた技術や劣化の様子、損傷状態、過去の修復状態といった保存状態を正確に把握するために、X線や赤外線を利用した調査をおこなっています。調査により、文化財が引き起こしている症状を正確に診断し、適切な治療に役立てるとともに、科学の眼による新たな文化財の姿、形を解き明かします。

## 2 保存科学分析室

文化財がどのような技術でつくられたのか、どのような材料できているのかを、分析機器を用いて科学的

な調査をおこなっています。調査により、文化財が引き起こしている症状を正確に診断し、適切な治療に役立てるとともに、つくられた当時の技術や材料を科学の力で解き明かすことで、文化財に秘められた新たな価値を生み出すことに寄与します。



X線CTスキャナによる分析の様子(光学計測室)  
X線を使った撮影で、透過画像、断層画像、三次元画像を得ることができ、立体的に内部形状を探ることができます。



九州歴史資料館 1階平面図・中庭見学諸室と見学ルート

### 3 保存修復室

文化財は長い間、伝世していたり、土の中に埋蔵していたことで、劣化や損傷を起こしており、展示、研究資料として役立てるためには修復し、適切に保存する必要があります。ここでは、文化財が引き起こしている劣化などの症状に対し、問診や初期的な手当、保存のための適切な温湿度や空気質など保存環境の解析をおこなっています。

### 4 金属器保存処理室

発掘調査で出土した鉄や銅などの金属器は、長い間土の中に埋蔵されていたので、もともとの物性は失われ、さびが進行し、やがては崩壊してしまいます。こうした文化財を展示、研究資料として役立てるためには、科学の力が必要であり、科学的な考え方や技術、設備、薬品などを駆使して、根本的な保存処理をおこなっています。

### 5 文化財整理室(洗浄・注記)

発掘調査で出土した土器の多くは、土が多く付着しており、ブラシなどを使いながら水で洗って落とします。ただ洗うだけと思いがちですが、軟らかい性質の土器は傷つけないようハケでいねいに、かたい性質の土器はブラシで洗うなど、土器の性質を見きわめて洗浄しています。そして乾いたら遺跡名や出土した位置を小さく記入します。

### 6 文化財整理室(復元)

土器の多くは、割れた状態で出土します。これを、パ

ズルのように1点ずつ接合していきます。ただしパズルのようにすべてピースがあるとは限らないので、たいへん根気のいる仕事です。接合が完了し、足りない部分は、形のゆがみに気をつけながら、元々の姿を想像しつつ石膏を入れて形を復元します。

### 7 文化財整理室(実測・製図)

発掘調査の終了後、竪穴住居(遺構)や土器(遺物)などの記録をまとめて報告することが必要です。ここでは、土器の形や作り方を観察して実測しています。そして、遺構や遺物の実測図をレイアウトしトレースします。このトレース作業による図面をもとに、調査記録や土器の特徴に関すること等を調査報告書としてまとめます。

### 8 遺跡をまもり、伝えるために

遺跡は、文献のような記録では窺えない地域の歴史や文化を雄弁に物語るものです。遺跡は本来、現状のまま土の中で保存されるべきですが、道路工事など開発の際は、やむなく内容解明のため発掘調査をおこないます。調査成果は報告書にまとめられ、各種研究や保存のための検討の基礎資料として活用されます。そして研究により価値づけられた後、展示や史跡整備等で広く一般に公開しています。

(文化財調査室 加藤和歳)



モバイル型蛍光X線分析装置による調査  
(保存科学分析室)

文化財がどのような元素でできているのかを、非破壊で調べることができ、そこから材質や組成を明らかにします。この分析は、実験室だけではなく、写真のような移動できる機器を文化財の近くに運び、その場で材質や組成を調べることができます。



遺跡から出土した土器の復元作業  
(文化財整理室)

バラバラで出土した土器の破片を接合した後、見つからなかったために生じた土器と土器の隙間には、水で溶いた石膏を入れて、固まってきたら土器の形に合わせて、ナイフなどで削って成形していきます。



土器の実測作業  
(文化財整理室)

土器の外側の点を定規で測りながら正確にとり、その点を方眼紙に落とし、入念に観察しながら外形線を描きます。そのようにして実測された図面は、製図用のペンを使って、一枚一枚、細心の注意を払いながら正確になぞるようにしてトレースされます。



編集 発行: 平成24年11月30日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>